

周辺の文化財



鎮西山

ちんざいざん
鎮西山(標高202m)は、平安時代末期に活躍した鎮西八郎為朝(源為朝)の伝説が残る地で、中世の山城があったことがわかっています。また麓の屋形原は為朝の館があったといわれています。

鎮西山周辺の古墳群

ちんざいざん さんろく こふん
鎮西山の山麓には古墳がつけられていた時代の終わりごろの小円墳が数多く残っています。登山道を歩いていくと所々に横穴の古墳を見ることができます。

二塚山五本谷遺跡(県史跡)

佐賀県東部中核工業団地がつけられたときにおこなわれた調査で、弥生時代のカメラ墓の中から銅鏡6面をはじめ貴重な副葬品が出土しました。墓地の中央部は緑地公園として残されています。

船石遺跡(県史跡)

ふないし
船石天神社境内には「船石」、「亀石」、「鼻血石」とよばれる巨石があります。調査の結果、船石と亀石は弥生時代の支石墓、鼻血石は古墳の天井石とわかりました。

八藤遺跡

あそ
今から9万年前、阿蘇山の噴火によって大火砕流がおり、九州の約3分の2を埋めつくしました。八藤遺跡では、この火砕流でなぎ倒された直径1.5m、長さ20mをこえる巨木のほか多くの倒木群や火砕流の地層がみつかりました。

古代の道

きりどおし
国道34号線の切通付近は古代には官道が、江戸時代には長崎街道が通っていました。切通という地名はこの街道を通すときに丘陵を切ったことに由来するものと考えられています。

上峰町文化財イラストマップ



アクセス

- 堤土塁跡歴史公園まで
- JR吉野ヶ里公園駅より車で約7分
- JR中原駅より車で約7分
- 国道34号線切通交差点より車で約3分
- 長崎自動車道 東脊振インターより車で約5分

平成8年10月発行 平成27年1月改訂

上峰町教育委員会

〒849-0123 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4
TEL 0952-52-3833 FAX 0952-52-3888

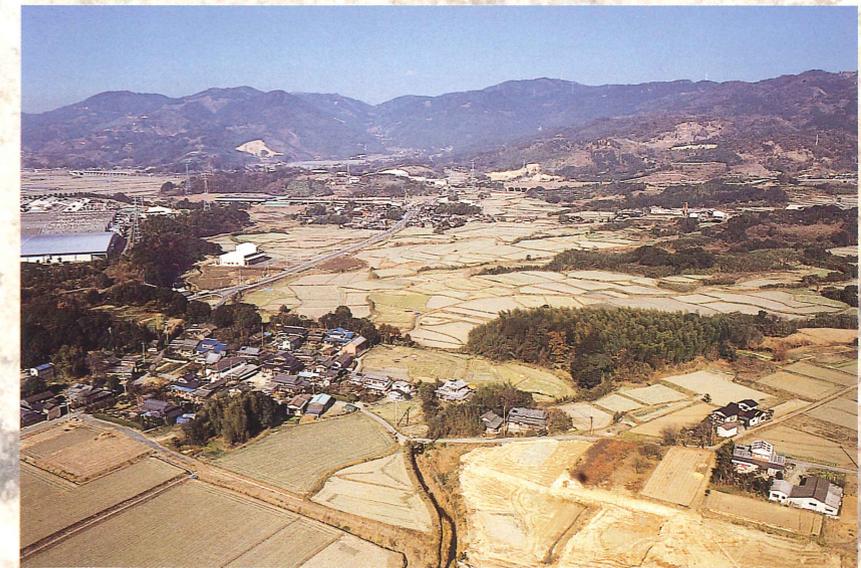
郷土史のお問い合わせは上峰町ふるさと学館へ

佐賀県三養基郡上峰町大字坊所606
TEL 0952-52-4934 FAX 0952-52-4937

佐賀県史跡

堤土塁跡

TSUTSUMI DORUI ATO



かみみねちょう
佐賀県 上峰町

堤土塁跡

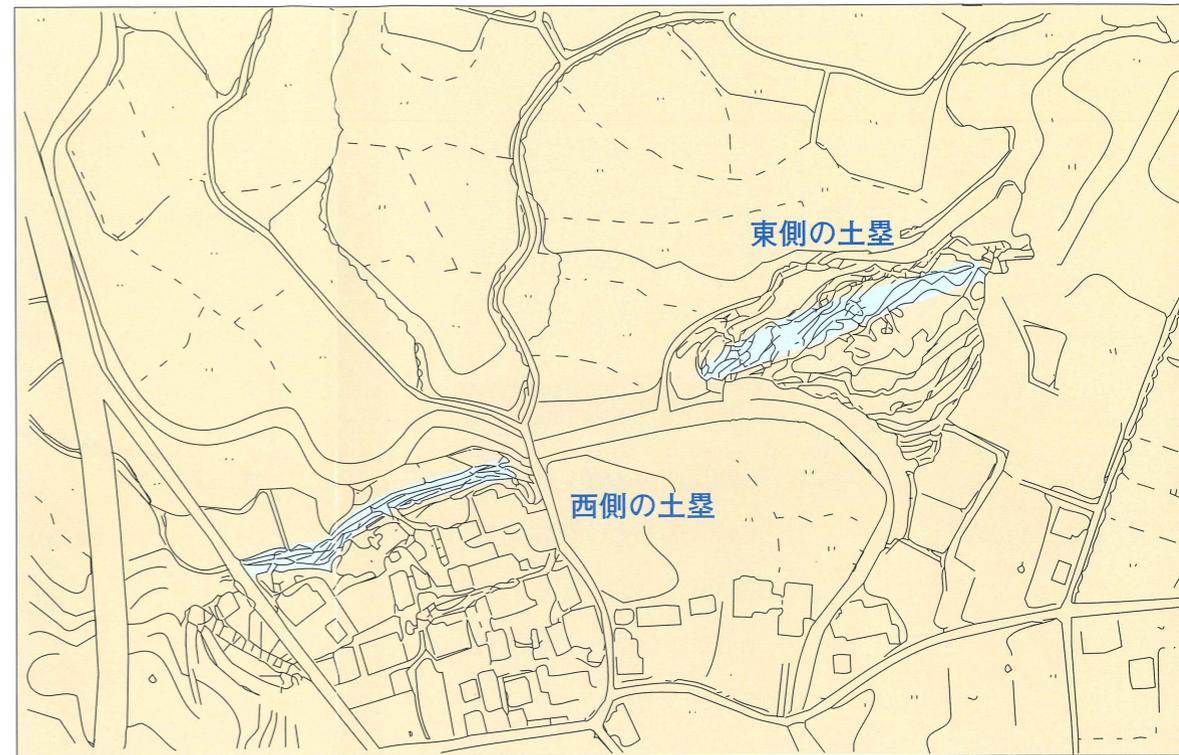
つみどるいあと かみみねちよう せふり
 堤土塁跡は上峰町北部に位置し、脊振山地の南側にの
 びる二塚山丘陵と八藤丘陵との間で谷を東西にささぎる形で
 築かれています。現在は中央を切通川が流れ、東西に分かれ
 たかたちで残っています。

東側の土塁は長さ約110m、幅約20m、高さ約2m、西側の
 土塁は長さ約110m、幅約40m、高さ約5mで東西を合わせると
 長さ約300mにおよびます。

土塁は自然の地形を利用してその上につくられており、版
 築工法に似た土木技術がもちいられています。

東側の土塁の東端には「野越し」とよばれる幅約6m、深さ
 約2mほどの切り通しがあり、「水落とし」の施設ではないかと考
 えられています。

どるい
 この土塁が造られた時期は7～8世
 紀と考えられており、目的は当時の農
 業用水を蓄える灌漑施設説、大宰府
 などの防衛施設説、また土塁の東側
 から幅6mの道路跡が見つかったこと
 から古代の道路ではないかという説な
 どがあり、結論がでていません。いづれ
 にせよ古代において、これだけの大規
 模な土塁が築かれたことは、土木技術
 の高さを知る上でも、また佐賀東部の
 歴史を考える上でも重要な遺跡です。



■堤土塁と周辺の旧地形図

土塁の築造工法

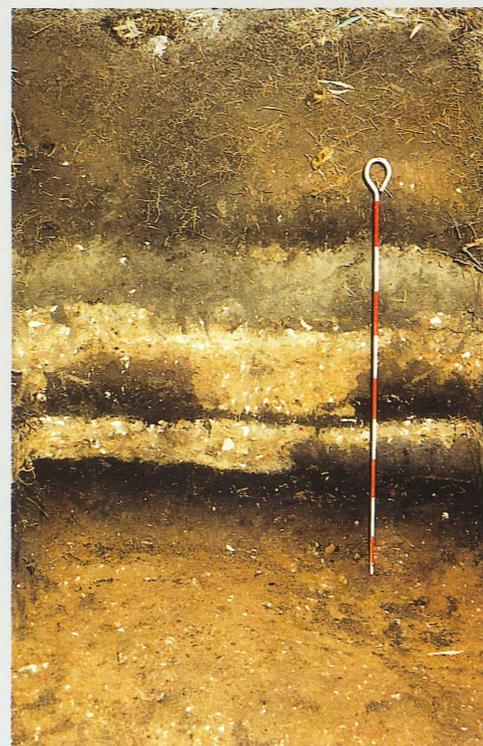
きゆうりよう
 堤土塁は自然の丘陵を巧みに整形し、その上に粘土、砂まじり
 の土、黒い土を交互に積み上げ、たたき締めてつくられています。

この工法をつかうと強固な基盤をつくることができます。

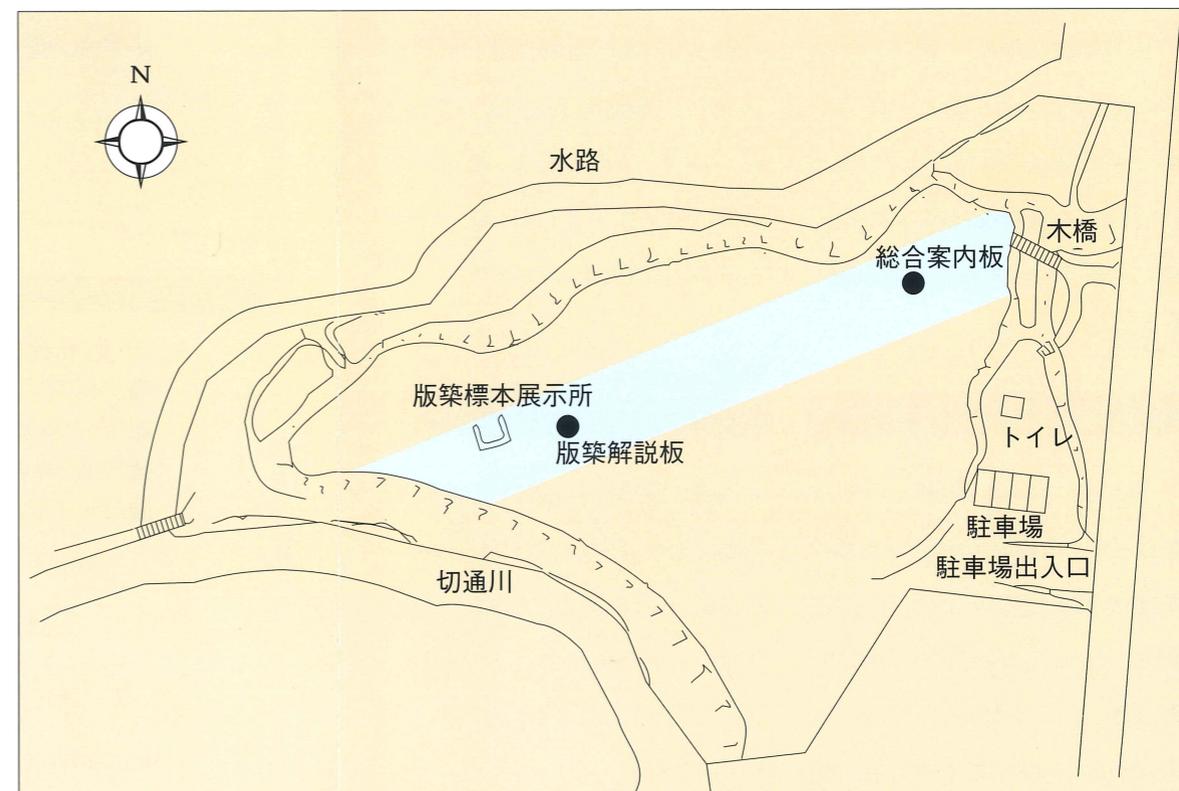
はんちく
 これは古代の版築という工法に似たもので、当時においては高
 度な技術といえます。



■版築標本展示所



■版築部分



平成8年度3月 環境整備事業竣工

■堤土塁跡歴史公園施設配置図